

令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、数学、英語) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校調査は、国語、数学、英語とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【中学校 国語・数学・英語 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

<教科に関する調査> は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	69.5	68.8	67.5
情報の扱い方に関する事項	2	59.7	64.3	63.4
我が国の言語文化に関する事項	3	76.1	75.9	74.7
話すこと・聞くこと	3	86.4	83.4	82.2
書くこと	2	63.3	65.0	63.2
読むこと	4	59.4	65.2	63.7

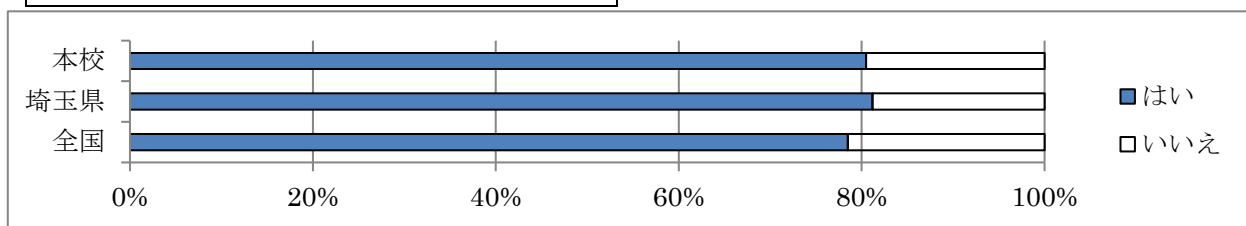
数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	57.3	62.9	63.0
図形	3	31.0	34.5	33.2
関数	4	49.1	52.0	51.2
データの活用	3	49.6	52.0	48.5

英語				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
聞くこと	6	56.6	59.6	58.4
読むこと	6	47.2	51.4	51.2
書くこと	5	20.2	24.1	23.4
話すこと	5			12.4

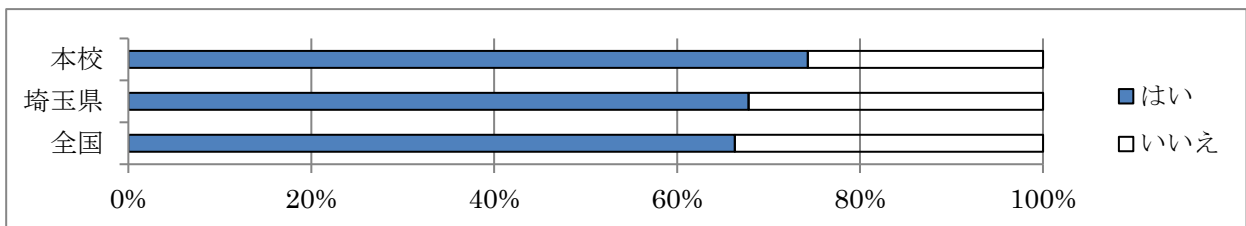
＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

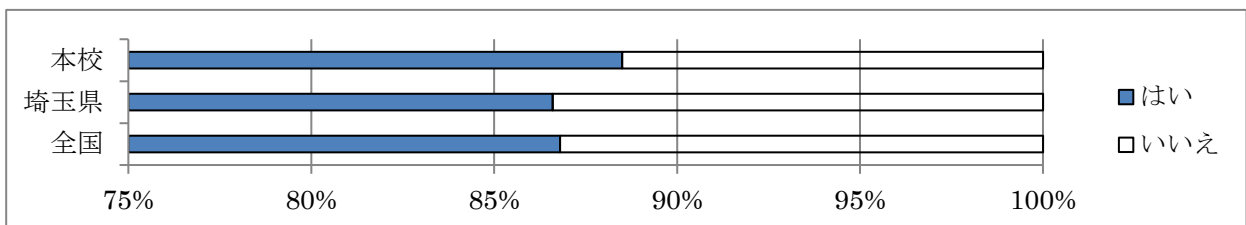
自分には良いところがあると思いますか。



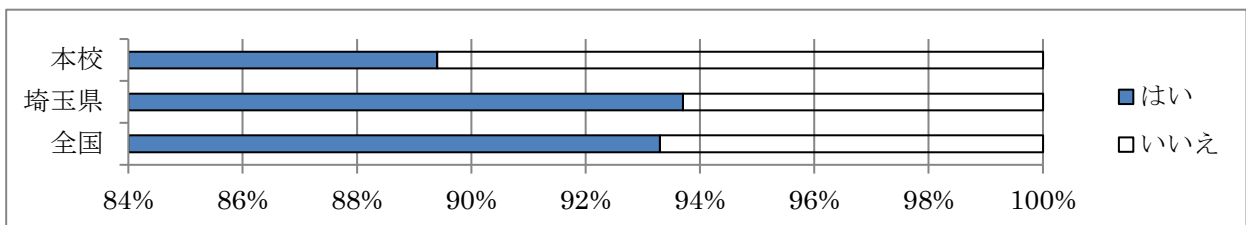
将来の夢や目標を持っていますか。



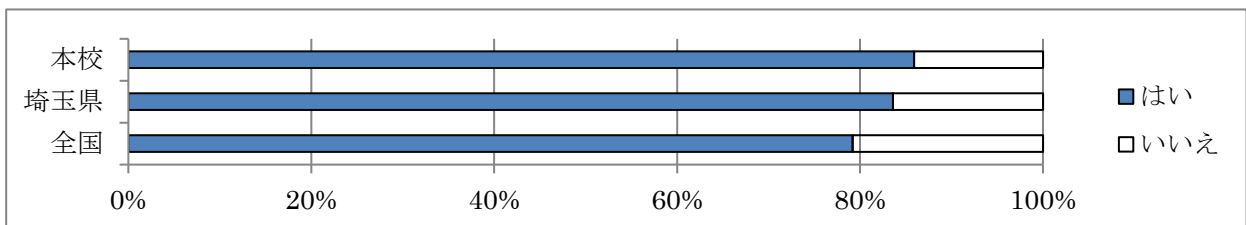
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか。



学習の中でPC・タブレットなどのICT 機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますか。



1、2年生の時の授業では、課題解決に向けて、自分で考え、進んで取り組みましたか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、6領域のうち2領域が全国平均・県平均を下回った。特に「読むこと」は4.2ポイントと大きく下回っている。文章読解の段階において読解の手段に乏しかったことが挙げられる。また、「話すこと・聞くこと」に関する正答率が4.2ポイント高くなったのは、発言や話し合い活動の中で入念な準備をしたことや意見を聞き、考察を深めることができていたことが挙げられる。

【問題 1 (一)】

問題

南さんの【インタビューの前に準備したメモ】について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。

正答 1

- 1 インタビューの目的に沿った質問をするために、知りたいことを整理している。
- 2 質問の内容を相手に明確に伝えるために、言葉遣いや話し方を確認している。
- 3 見通しをもって話を進めるために、質問に対する相手の答えを予想している。
- 4 話題を広げるために、インタビューの目的とは異なる質問をしている。

目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみとる問題でした。本校正答率は全国平均よりも3.7ポイント上回っています。これは「話を円滑に進めるためのメモの準備」という自身も授業で取り組んでいる観点を持ち、「説明したものとして適切なもの」を選ぶという問題に正対できていることが上回った理由と考えられます。

【問題 2 (三)】

問題

中山さんは【A】と【B】の文章で述べられていることをまとめました。次のア・イに入る言葉として最も適切なものを選びなさい。

正答 ア 3 イ 4

- 1 同じテーマの本を何冊も読むことで、もの見方を広げる。
- 2 一人の作家の代表作を選んで読むことで、その作家の特徴をつかむ。
- 3 同じ本を再度読むことで、以前と違う自分に気づく。
- 4 一人の作家の全集を隅から隅まで読むことで、その作家の性格や個性を知る。

文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに捉え、要旨を把握することができるかどうかをみとる問題でした。本校正答率は全国平均よりも5.6ポイント下回っています。特に【A】文章のアの選択肢を誤答していることが多くなっていました。これは文章が何を目的として書かれているか把握できていない読解の課題と考えられます。文章の種類に応じた読解や文章の目的や視点を理解させる必要があります。

<数 学>

【領域別】

今年度の結果を見ると、3領域において全国平均を下回っている。特に「数と式」においては6%の開きがあった。授業では、演習量を増やして基礎計算能力を身に付けさせられるよう、授業改善が必要である。「数と式」「図形」領域において、式や性質等の根拠をもとに数学的な説明をする演習をより丁寧に行っていくことも必要であると考えられる。

【問題 6 (2)】

問題 「はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。この予想が成り立つことの説明を完成させなさい。

$$\begin{aligned} & \text{はじめの数として入れる整数を } n \text{ とする。} \\ & n \times 2 + (n + 6) \\ = & \end{aligned}$$

正答 $3(n + 2)$
 $n + 2$ は整数だから、 $3(n + 2)$ は3の倍数である。したがって、はじめの数にける数が2、たす数が6ならば計算結果はいつでも3の倍数になる。

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題でした。本校正答率は、全国平均正答率よりも8.4ポイント下回っています。基礎的な式の変形の知識・技能を定着させるとともに、式が表す数値の意味を理解することで説明する力につながると思われます。

【問題 9 (1)】

問題 図において $BC \parallel AE$ であることを $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明しなさい。

正答 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから、
 $\angle BCA = \angle EAC$
よって、錯角が等しいから $BC \parallel AE$

ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題でした。本校の正答率は、全国平均正答率よりも5.6ポイント下回っており、無回答率が34.5%でした。論理的な説明をする問題なので、すぐにあきらめてしまう生徒が多かったようです。図形の性質についての知識を定着させた上で、実際に理論立てて説明する書き方を身に付けさせていくことが重要です。

<英 語>

【領域別】

3領域において平均を下回っているので、改善が必要である。特に、聞くことが県や全国の平均を大きく下回っている。実態に応じた授業改善を行っていく必要がある。特に「読むこと」に関しては、大きく下回っているので、読む活動を改善していく必要がある。

【問題】 7

問題

There are many kinds of spaces, (), people can read books on sofa….

- 1 Like this
- 2 For example
- 3 Then
- 4 Second

正答 2

英文を正確に読み理解する必要がある問題であった。本校正答率は、全国平均正答率よりも2.6ポイント上回っています
前後関係をしっかりと読み取り、正しい語句を入れることができた生徒が多くいたことが要因と考えられます。また、語句の知識を高めるために、単語テストなどを積極的に取り入れたことが要因と考えられます。

【問題】 10

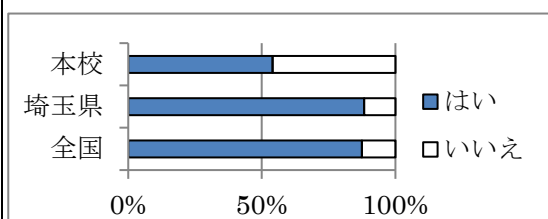
問題 あなたの学校についてのウェブサイトを25語以上の英語で書きなさい。

正しい英作文をする問題でした。本校正答率は全国平均正答率よりも4.7ポイント下回っています
英作文をする上で、英語で表現できることが何かを考え、既習事項を用いながら表現できなければいけない問題でした。日々の授業の中で、積極的に英作文をする機会を設け、生徒が英文を書くことに対しての抵抗感をなくしていきたいと思います。

<質問紙調査から>

【問題番号33】

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

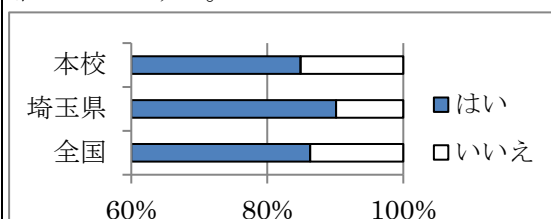


<分析>

「ICT機器を使うのは勉強の役に立つとおもいますか」という質問に対し、昨年度は全国や埼玉県と同等の結果となった。また、質問紙の4択のうち、1番の「そう思う」と回答した割合は、全国が56.7%、埼玉県が58.3%なのに対し本校の割合は59.9%と上回っていた。しかし、今年度は、全国が58.7%、埼玉県が60.1%なのに対し本校の割合は54.9%と大きく下回ってしまった。この結果の要因としては、導入されているタブレット端末が授業で十分に活用されていない結果であると考えられる。上記の質問紙の回答でも、週1回以上ICT機器を活用している割合は、全国が87.5%、埼玉県が88.3%なのに対し本校の割合は54.0%と大きく下回っている。本校では、令和5年度から3年間、「意欲を持ち、自ら学びに向かう生徒の育成 ～教科の特性や教材に応じたICT機器の効果的な活用を通して～」を研究テーマに、ICTを活用した各教科の授業改善に取り組んでいる。今後も、ICT機器のより有効な活用方法を研究の中心に据え、自ら学びに向かう生徒の育成に取り組んでいく。

【問題番号46】

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話合ったりする活動に取り組んでいますか。



<分析>

令和2年度から3年間、「対話を通してよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を研究テーマに、道徳の授業改善に取り組んできた。研究3年目の結果としては、全国が86.3%、埼玉県が90.1%なのに対し本校の割合は84.9%と埼玉県、全国を下回り残念な結果となった。しかし、昨年度の本校との比較では76.7%からポイントが8.2%伸びており、確実に研究の成果は出ていると思われる。道徳の授業では常に、「自分の考えを深める取り組み」「話し合いの取り組み」を行ってきたが、今後も指導方法の改善に努め、生徒の『意識改革』と『主体的・対話的で深い学び』の実現に取り組んでいく。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和5年5月11日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	13	68.3	69.8	13	50.3	54.0	13	59.1	58.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	43.1	44.2	8	65.8	65.0	6	48.5	54.3
話すこと・聞くこと・書くこと	5	51.0	56.3	3	71.9	72.1	5	53.3	56.1
読むこと	8	66.2	70.9	7	61.7	61.4	8	48.2	51.6
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑		↑↑	↑↑		↑	↑↑

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	11	60.2	61.0
図形	10	51.9	49.9
変化と関係	8	57.2	55.9
データの活用	4	63.0	60.9
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑

数学	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	13	52.4	59.8	11	61.3	66.7
図形	9	45.5	50.4	8	51.0	61.7
関数	6	60.1	62.9	7	48.4	52.6
データの活用	5	63.8	67.6	7	50.3	58.8
※学力の伸びた生徒の割合		↑↑	↑↑↑		↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	56.7	62.7	10	47.1	56.7
読むこと	18	51.3	54.7	18	48.3	50.4
話すこと	2	45.9	46.9	2	19.3	26.5
書くこと	6	32.8	35.5	6	47.7	48.2
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑	↑↑↑

<生徒への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (%)

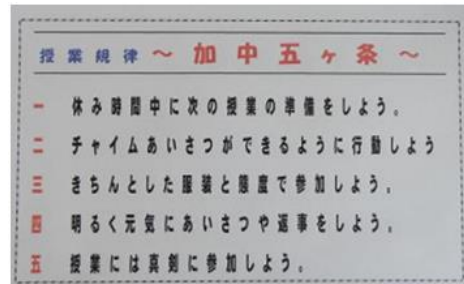
内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 100.0	96.5 91.7	95.8 91.2
	② 授業開始時刻	96.7 96.1	97.3 88.4	97.4 91.2
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	88.1 87.1	90.8 87.6	92.1 94.7
	④ 整理整頓	76.5 79.2	77.5 73.5	80.4 84.2
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	82.6 81.2	83.1 75.2	84.5 85.9
	⑥ 返事	89.4 94.1	90.1 85.1	90.1 87.7
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ 適切な言葉づかい	90.9 91.1	92.7 87.6	92.5 89.4
	⑧ やさしい言葉づかい	88.7 92.1	89.9 88.5	90.2 85.1
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	91.4 92.1	92.5 83.5	93.1 89.5
	⑩ 話を聞き発表する	79.0 82.2	77.7 77.8	78.7 75.4
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	93.1 91.1	94.4 88.4	95.2 90.3
	⑫ 掃除・美化活動	87.4 88.2	86.8 76.9	87.2 88.6

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 授業規律の明確化

- (1) 教師と生徒が共通してそして各学年が授業の3分前着席に取り組んでいます。チャイムの開始と同時にあいさつを行い、授業に集中して取り組むようにしています。
- (2) 『加中五ヶ条』を作成し、授業規律に取り組んでいます。



☆2 加納中型授業スタイルの確立

- (1) 各教科で授業の目標やねらいを明確化し、つながりのある授業を行うことで、生徒が授業で学ぶ内容について見通しをもたせる取組を継続しています。
- (2) 授業の終わりに振り返りの時間を設け学習内容の理解や疑問点など確認します。

■3 「学び合いの活動」の充実

日々の授業の中にグループでの話し合い活動、思考ツール（考えの流れを見るための道具）の活用など、生徒が主体となる活動を取り入れ「学び合いの活動」を行っています。

■4 タブレットパソコン、電子黒板などICT機器の充実

学習意欲の向上・「学び合いの活動」の効率化を図るICT機器を、学習のねらいに応じて活用しています。また、昨年度より「スタディサプリ」を導入し、基礎学力の向上と学習習慣の確立を図っています。

授業以外の取組

☆1 「時」「場」「礼」の生徒指導共通目標の推進（小学校との連携）

「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師と生徒の共通目標として常日頃から取り組んでいます。

■2 朝読書の取り組み

朝の会の前10分間を読書の時間とし、本に親しむ時間とするとともに、落ち着いて授業を受ける状態を作っています。

■3 家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣化を図るため、宿題や課題プリントの提出、また家庭学習ノートを作成して自主的に取り組ませるなど、習慣化に向けた取り組みを行っています。

☆4 補習の取り組み

定期テスト前には教科の質問や補習の時間を設定しています。

☆5 加納中学校区の加納小、桶川東小との連携

小学校に出向いてのあいさつ運動、小学6年生の中学校授業見学など、小・中連携を通じて「学力向上」に向けた実践をしています。

☆6 校内掲示・展示の充実

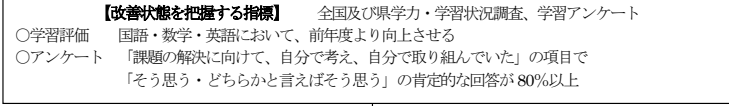
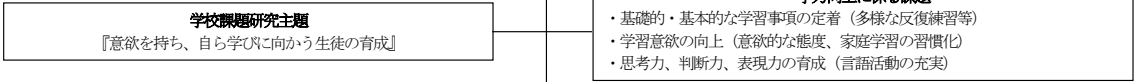
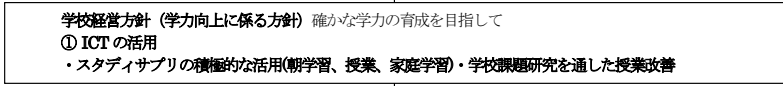
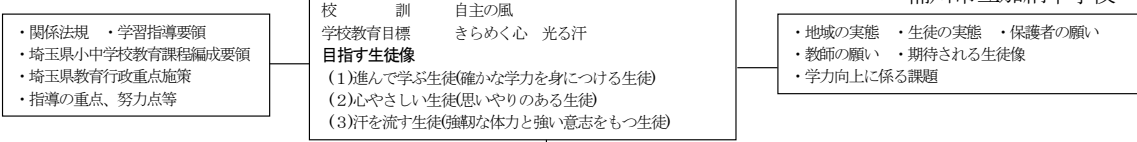
様々な活動の意欲を喚起したり、心に潤いをもたせるような生徒の優れた作品や取り組みの掲示・展示等を充実させたりしています。

☆…成果を上げたと考えられる取組、 ■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

令和5年度 学力向上全体計画

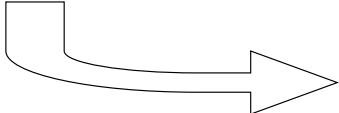
桶川市立加納中学校



【各教科の目標】	【各教科の目標】
<p>国語 主体的な言語活動を通して、社会生活に生きる言語能力を身につける指導の工夫 社会 基礎・基本の定着を図るための学習指導法の工夫 数学 主体的・対話的で深い学びを通して、基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫 理科 基礎基本の確実な定着 主体的に学習に取り組む生徒の育成 理科 授業を充実させ、基礎学力の定着を図る 科学的に解決する力を身につける 英語 コミュニケーション能力を培う基礎・基本の定着 音楽 校歌の大切さを理解した上で校歌をのびやかな声で歌う能力を育てる 自分を表現する力(音楽表現+思考)・聴く力(音楽や他者の発言)を育てる 美術 美術に対する興味を持たせ、関心・意欲を高める さまざまな発想を視覚化し、組み合わせたり再構築したりしていく力を向上させる 造形的な技能習得に粘り強く取り組み、自分なりの表現を向上させる 保健体育 運動の喜び楽しさを実感し、見学者をゼロにする 自尊感情を育み、仲間を大切にすることを育て、大きな声が出せる授業にする</p>	<p>技術家庭 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど課題を解決する力を養う よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う 道徳 対話を通してより良い生き方を考えることができる生徒の育成</p> <p>【各領域等の指導の重点】 特別活動 ・集団生活から、一人一人が自主性や創造性を伸ばしようとする態度を養う。 総合的な学習の時間 ・情報の収集、活用の仕方、まとめ方、発表の仕方などの学び方や、ものの考え方を身につける。</p>

改善の観点 (具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI	VII
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	新教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修計画の実施と工夫	学校評価・検証の計画と実施	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的な学びの研究に努める。	新学習指導要領を視野に入れた教育課程の編成に努める。	先行実施される内容に重点を置いた指導計画の立案とその実施に努める。	各教科の評価規準を明確にし、適正な評価に努める。	具体的に取り組む内容を明確にした上で、着実に実践し、検証を行う。	学校評価を生かし、根本的なことを重視すると共に、多面的で計画的、継続的な学校運営を目指す。	学校だよりや学年だより等の計画的、継続的な発行により本校の教育方針の啓発に努める。
課題解決のための具体的取組	○1単位時間の授業における工夫改善 ○協調学習等を取り入れた授業改善の取組 ○補習の実施 ○長期休業明けの確認テストの実施 ○校内実力テスト(年2回)実施と分析 ○授業改善アンケートの実施	○研究主題「意欲を持ち、自ら学びに向かう生徒の育成」特に主体的に学ぶ姿を想定した指導計画の立案 ○総合的な学習の時間の指導計画の見直し ○道徳科への対応(授業・評価等の研究)	○教科横断的な知識技能の活用を意識した指導計画の作成 ○学び合いの有効活用 ○体験活動を積極的に取り入れた授業の取組	○授業後の振り返りや自己評価の方法の工夫改善 ○定期テスト後の振り返りを活用した学習目標の設定	○PDCAサイクルに沿った授業改善の取組 ○「分析支援プログラム」を用いた取組の検証と課題の設定 ○先行研究の検証 ○学習指導を中心に、他分野の実践研修の積極的実施	○学校評価の2回実施 ○保護者アンケートの実施 ○生徒の学校生活に関する意識調査の実施 ○学校運営協議会 ○県学力学習状況調査等の分析	○成績個表、通知表の見直しと改善 ○定期テスト後の振り返り ○宿題の出し方の工夫と家庭学習ノートを活用した家庭学習習慣の形成
関連する行事等	・朝読書と朝学習 ・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業見学	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業参観週間	・PTA総会 ・コミュニティスクール ・学年、学級懇談 ・学校公開 ・授業参観 ・学校だより	・学校公開 ・授業参観 ・PTA総会 ・家庭訪問、三者面談 ・学校、学年だより ・学校ボランティア



各教科学力向上プラン

保護者・地域の皆様へ

本校では、令和5年度から3年間、「意欲を持ち、自ら学びに向かう生徒の育成」を研究テーマに掲げ、サブテーマを「教科の特性や教材に応じた ICT 機器の効果的な活用を通して」として、ICTを活用した各教科の授業改善に取り組んでいます。

今後も、ICT機器のより有効な活用方法を研究の中心に据え、意欲をもち、自ら学びに向かう生徒の育成を目指して日々の教育活動と授業改善に力を入れて取り組んでいきます。特に令和3年度から本格的に導入されたタブレットなどのICT機器をより有効的に授業で活用するため、ICTを活用した授業実践・学力向上にもさらに取り組んでいきます。今回の質問紙調査では「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、県はわずかに下回りましたが、全国を上回りました。また、「自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動」については、全国の72.6%を上回る77.0%の生徒が「はい」と解答しています。また、学力テストの結果を見ても、全国学力・学習状況調査では、国語の6領域のうち4領域で正答率が全国を、3領域で正答率が県を上回りました。一概にICTの活用と国語の調査結果が結びつくとは考えませんが、いろいろな情報を集めて整理し、調べたことを進んで発表するなどの学習活動に取り組む意識が、多くの生徒に根付いてきた結果と思われる。引き続き、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向け、今後も授業改善に取り組んでいきます。

また、学習環境を整えるための取り組みとして、授業開始3分前には着席し、チャイムで授業を始める「チャイムあいさつ」を励行しています。学習規律が整うことで授業に集中でき、話し合いの活動における学習効果が高まります。さらに、本校でも、より授業に集中しやすくなるよう教室前面の掲示物を必要最小限にとどめ、不必要な情報が入らないようにして、より授業に集中しやすくなるよう教室掲示を工夫したり、カバンなどの用具はロッカーにしまい、机には掛けないようにする、清掃活動を徹底して行うなど、学習環境が整った状態で授業を行うように努めてまいりました。

さらに、学校で習った学習内容を定着させ、それぞれの思考・判断に生かせるようにするには、家庭学習が欠かせません。今年度から「スタディサプリ」を導入して、さらなる学力の向上のために、宿題だけでなく個々の課題に合わせた学習の支援が行える体制を整えてまいりました。ご家庭でも、ご支援・ご協力をお願いいたします。